

壬生町政だより

住民登録人口

昭和41年8月1日現在	対前月比
総人口 24,064人	146人減
男 11,837人	71人減
女 12,227人	75人減
世帯数 5,007世帯	1世帯増

発行所 栃木県壬生町役場

(毎月24日発行)

(第三種郵便物認可)



← 完成したごみ焼却場

↓ ごみを運ぶ塵芥車と近所の奥さんたち(栄町)

ごみ焼却場が完成

塵芥車も運転開始

壬生町の環境衛生設備事業の一環として昨年12月から壬生町字藤葉に建設中だったごみ焼却場が7月に完成し、8月2日その火入式が行われました。

この焼却場は、昭和40年度の事業として、事業費約1,300万円をかけて建設したものです。

敷地面積は、2,320平方メートルで、鉄筋コンクリート造りの3階建。

焼却炉は、固定丸型立炉(自然通風式)で、1日8時間で10トンの焼却能力をもっています。

また、それに伴って塵芥車も購入しました。

◆塵芥車の巡回方法

8月3日から塵芥車がオルゴールを鳴らして巡回を始めております。

巡回方法は先日回覧で巡回予定表をご覧になったと思いますが、その予定表は現在のところ試験的に巡回しておりますので、ご了承ください。また、塵芥物ですが、容器は全部ポリバケツを使用していたが、塵芥には危険物(ガラス類、セトモノ類、金物類)は入れないこと。

また水分の含む塵芥はナイロンの袋に入れてください。

お知らせ



軽自動車税の月割課税について

軽自動車税の年中途における購入による軽自動車税は、購入した月の翌月から軽自動車税(随時)が賦課されることになっております。

今後新たに購入された方は、またその年の納税通知書を発行し、その年の税金を納入していただきますのでお知らせいたします。

壬生地区 一四、一八七円
稲葉地区 五九、〇八五円
南六師地区 七三、四三九円

福祉年金の支払日は

九月期支払の福祉年金は、九月六日から各郵便局の窓口で支払われます。

○時間 午前時〜午後四時 まで

○持参するもの
福祉年金請求書、印かん
福祉年金請求書兼受領書
九月の納税
国民保険 第三期分
国民年金納入期
七、八、九月分

郡民体育祭

第十八回郡民体育祭は、来る九月四日藤岡町で開催されます。

種目は陸上、柔道、剣道、卓球、排球、弓道、相撲、野球、みなさん張りましょ。

日赤募金あつまる

日赤募金は、みなさんの協力によりまして次のとおり目標額を突破して完了いたしました。

壬生地区 一四、一八七円
稲葉地区 五九、〇八五円
南六師地区 七三、四三九円

防犯灯について

東京電力栃木営業所は、明るい街づくりのため、ただいま防犯灯器具の一斉点検を実施しております。

引線線の危険箇所、手動点滅器の故障箇所はありません

出向いで改修いたしますから、お気軽に申し出て下さい。また、明け方づくりのため、昼間消灯は甚ぞ協力くださるの受け付をいたしております。

九月の心配ごと

無料相談
第一火曜日 六日 中央公民館
第二火曜日 十三日 稲葉公民館
第三火曜日 二十日 中央公民館
第四火曜日 二十七日 南六師公民館

芸術祭文芸作品の募集

栃木県芸術祭協議会では、第二十回栃木県芸術祭文芸作品の募集をしておりま

創作・評論 詩、短歌、俳句、川柳など
応募方法
作品は未発表のもの
投稿先 県庁内、栃木県芸術祭運営協議会文芸部会
十月十五日

農事用電力の仮申込

稲作増収の手段として、かんがい電力の増設希望者が多

東京電力栃木営業所へ
二人事務局東務局へ

豚コレラ予防

最近県内に豚コレラの豚丹毒が大発生して、多くの被害

1. 予防注射は必ず受けること
2. 豚舎及び出入口には、必ず消毒をもうけ、その都度消毒をしよう。
3. 異常の豚を発見した場合に、ただちに役場経済課または、農協、獣医師に連絡をしよう。

刑務官募集

法務省では次のとおり、刑務官の募集を実施しております。

受付期間 八月二日から九月三十日まで
試験期 十月三日(日)
受験資格 昭和十四年四月二日から二十四年四月一日までに生まれ、一男子。学歴は問いません。

江戸時代の壬生

江戸時代は壬生城主となつて、在りし頃の壬生城は殆ど現

の三浦時代には大手門(追手門)が興生寺の前通の要衝で、しかも防備によい所が選ばれ、各城主は巴の護りのため武士階級と威容を誇り、消費階級もあって、下町は生城大の需要に即する

下町の繁栄が追々衰微から通町に移ったことなどから大手門が、江戸時代には現在の門と現在の学校地に移した。それら以後、大手門の偉容は相違のないで、西高野を隔て、日光街道が、現在の日光街道となった。

城と城下町
鳥居が壬生城主となつて、在りし頃の壬生城は殆ど現

の三浦時代には大手門(追手門)が興生寺の前通の要衝で、しかも防備によい所が選ばれ、各城主は巴の護りのため武士階級と威容を誇り、消費階級もあって、下町は生城大の需要に即する

下町の繁栄が追々衰微から通町に移ったことなどから大手門が、江戸時代には現在の門と現在の学校地に移した。それら以後、大手門の偉容は相違のないで、西高野を隔て、日光街道が、現在の日光街道となった。

城と城下町
鳥居が壬生城主となつて、在りし頃の壬生城は殆ど現

の三浦時代には大手門(追手門)が興生寺の前通の要衝で、しかも防備によい所が選ばれ、各城主は巴の護りのため武士階級と威容を誇り、消費階級もあって、下町は生城大の需要に即する



江戸時代の壬生

城と城下町
鳥居が壬生城主となつて、在りし頃の壬生城は殆ど現

の三浦時代には大手門(追手門)が興生寺の前通の要衝で、しかも防備によい所が選ばれ、各城主は巴の護りのため武士階級と威容を誇り、消費階級もあって、下町は生城大の需要に即する

下町の繁栄が追々衰微から通町に移ったことなどから大手門が、江戸時代には現在の門と現在の学校地に移した。それら以後、大手門の偉容は相違のないで、西高野を隔て、日光街道が、現在の日光街道となった。

城と城下町
鳥居が壬生城主となつて、在りし頃の壬生城は殆ど現

の三浦時代には大手門(追手門)が興生寺の前通の要衝で、しかも防備によい所が選ばれ、各城主は巴の護りのため武士階級と威容を誇り、消費階級もあって、下町は生城大の需要に即する

下町の繁栄が追々衰微から通町に移ったことなどから大手門が、江戸時代には現在の門と現在の学校地に移した。それら以後、大手門の偉容は相違のないで、西高野を隔て、日光街道が、現在の日光街道となった。

城と城下町
鳥居が壬生城主となつて、在りし頃の壬生城は殆ど現

の三浦時代には大手門(追手門)が興生寺の前通の要衝で、しかも防備によい所が選ばれ、各城主は巴の護りのため武士階級と威容を誇り、消費階級もあって、下町は生城大の需要に即する

下町の繁栄が追々衰微から通町に移ったことなどから大手門が、江戸時代には現在の門と現在の学校地に移した。それら以後、大手門の偉容は相違のないで、西高野を隔て、日光街道が、現在の日光街道となった。

城と城下町
鳥居が壬生城主となつて、在りし頃の壬生城は殆ど現

の三浦時代には大手門(追手門)が興生寺の前通の要衝で、しかも防備によい所が選ばれ、各城主は巴の護りのため武士階級と威容を誇り、消費階級もあって、下町は生城大の需要に即する

下町の繁栄が追々衰微から通町に移ったことなどから大手門が、江戸時代には現在の門と現在の学校地に移した。それら以後、大手門の偉容は相違のないで、西高野を隔て、日光街道が、現在の日光街道となった。

城と城下町
鳥居が壬生城主となつて、在りし頃の壬生城は殆ど現

の三浦時代には大手門(追手門)が興生寺の前通の要衝で、しかも防備によい所が選ばれ、各城主は巴の護りのため武士階級と威容を誇り、消費階級もあって、下町は生城大の需要に即する

下町の繁栄が追々衰微から通町に移ったことなどから大手門が、江戸時代には現在の門と現在の学校地に移した。それら以後、大手門の偉容は相違のないで、西高野を隔て、日光街道が、現在の日光街道となった。

城と城下町
鳥居が壬生城主となつて、在りし頃の壬生城は殆ど現

の三浦時代には大手門(追手門)が興生寺の前通の要衝で、しかも防備によい所が選ばれ、各城主は巴の護りのため武士階級と威容を誇り、消費階級もあって、下町は生城大の需要に即する

下町の繁栄が追々衰微から通町に移ったことなどから大手門が、江戸時代には現在の門と現在の学校地に移した。それら以後、大手門の偉容は相違のないで、西高野を隔て、日光街道が、現在の日光街道となった。

城と城下町
鳥居が壬生城主となつて、在りし頃の壬生城は殆ど現

の三浦時代には大手門(追手門)が興生寺の前通の要衝で、しかも防備によい所が選ばれ、各城主は巴の護りのため武士階級と威容を誇り、消費階級もあって、下町は生城大の需要に即する



らかしたとのことである。城下町は通町表町飯塚町の三町で夫々名主があり町奉行の支配にあり、その他領内の村々には夫々名主があり郡奉行の支配下にあった。

たので馬蹄城の名あり、本丸の外二の丸三の丸東郭下台郭正金寺郭等があり大体内東西五町二十間南北三町二十余間であった。当時の城郭は時代の要求によって戦国時代までの天險第一主義から脱皮して交通の要衝でしかも防備によい所が選ばれ各城主は巴の護りのため武士階級と威容を誇り、消費階級もあって、下町は生城大の需要に即する

下町の繁栄が追々衰微から通町に移ったことなどから大手門が、江戸時代には現在の門と現在の学校地に移した。それら以後、大手門の偉容は相違のないで、西高野を隔て、日光街道が、現在の日光街道となった。

城と城下町
鳥居が壬生城主となつて、在りし頃の壬生城は殆ど現